

## 動物介在活動における犬の適性評価について

長野県動物愛護センター「ハローアニマル」

望月弥生 小林文範 小木曾悦人 有賀良次 松澤淑美  
藤沢英一 小林雅巳 藤森令司 川村昭道 矢花由里香

### はじめに

当センターでは、保育園・幼稚園・学校等を対象とした「動物ふれあい教室」及び病院・福祉施設等を対象とした「動物介在訪問活動」を実施してきた。この動物介在活動は、年々需要が増加していることから、ボランティア等民間活力との協働が重要である。また、この活動が安全で安心に行われるためには、活動に参加する犬(以下活動犬)の適性評価とボランティアの知識と技術の向上が求められる。

当センターでは平成18年度から、動物介在活動におけるボランティアの育成と協働のために活動犬の適性評価を実施してきた。そこで、今回実施した適性評価とボランティアとの協働について報告する。なお、当センターでは、ボランティアを「ハローアニマルサポーター」(以下サポーター)と呼んでいる。

### 実施方法

- (1) 研修会の開催及び情報提供: サポーターに対し、動物介在活動に関する知識と技術の習得を目的に、年間を通じて研修会を開催した。また、定期的に会報を発行することにより最新の情報提供を行った。
- (2) ハローアニマルサポート犬適性評価: 平成18年度より、活動に犬を同伴するサポーターを対象に講習会と活動犬の適性評価を実施し適性に応じて6種類の「証」(表1)を交付した。「証」は活動犬の適性によって、A: 訪問活動アシスタント、B: ハローアニマルデモ、C: 幼稚園・保育園・学校等、D: 福祉施設、E: 病院、F: 小児病院の6種類とした。評価は、見知らぬ人への親和性、未知の刺激に対する反応と回復力、技術テスト、ハンドリングするサポーターのフォローの仕方等の項目について行った。
- (3) サポーターとの協働: 訪問対象施設及びサポーターとの連絡調整(施設の下見、活動の趣旨と実施方法の説明、活動場所等の確認、日程調整等)し、当センター職員とサポーターによる訪問活動を実施した。その後、訪問対象施設の理解と協力が得られた場合は、サポーターのみによる訪問を開始し、その場所の日程調整およびアフターケアは、引き続き当センターが行った。

### 結果及び考察



平成20年度は、138名のサポーター登録があった。サポーターを対象に動物介在活動研修会、犬の飼い方教室、セラピー犬育成事業研修会、アニマルセラピー研修会等を開催し、知識と技術の習得を図った。

ハローアニマルサポート犬適性評価については、3年間でサポーター60名、活動犬63頭に対して実施し、延べ246枚の「証」を交付した。「証」の内訳はA10枚、B60枚、C53枚、D52枚、E39枚、F32枚で、1頭に対し複数の適性が認められた場合、「証」はすべて交付した。この結果は、「可否」ではなく、活動犬の資質や傾向などを評価するもので、受講したサポーターは、自分の犬の適性を客観的に知る機会となり意識の向上にもつながった。

各種研修会と適性評価を実施することによって、サポーターの知識と技術の向上と犬の適性に応じた活動ができるため、サポーターのみでの訪問活動を依頼できるようになった。サポーターのみでの訪問活動は平成20年度(2月末現在)において98施設中、4施設に対し22回(のべ対象者数400名)実施した。当センターの訪問活動事業には限界があったが、サポーターの有効活用によって定期的かつ安心できる訪問活動の継続が可能となった。

今後も本事業を継続するとともに効果等を検証し、人と動物が共生する潤い豊かな社会の構築のために研鑽を積み尚一層努力したいと考える。

## ハローアニマルサポート犬活動適性評価証書 マーク説明一覧

マーク	活動の対象	活 動 内 容
	訪問活動アシスタント 動物とのふれあい補助 等	訪問活動の実施にあたり、動物を同伴せずに参加し、時間配分・活動状況等を総合的に判断し進行する。他の参加者やサポート犬のコンディションに配慮し、必要な場合はアドバイスする。
	ハローアニマルでの デモンストレーション 一芸披露等	ハローアニマルの開催するイベント等で、犬のしつけ方に関するデモンストレーションや一芸披露等を実施する。
	幼稚園、保育園 小・中学校、高等学校 児童センター等	子どもを対象とした「ふれあい教室」の実施を補助する。触り方を指導された子ども達を対象に、犬とのふれあいを行う。
	老人保健・福祉施設 身体障害者療護施設 知的障害者福祉施設等	左記の対象施設で訪問活動を実施する。犬自身が、ふれあいや一芸披露などで活動を楽しむことができる。
	病院 指定介護老人福祉施設 等	左記の対象施設で訪問活動を実施する。医療器具等の対象物にも過剰に反応せず、落ち着いていることができる。アニマルセラピーの実施に対応できる。
	小児病院 知的障害児施設 児童養護施設等	左記の対象施設で訪問活動を実施する。大きな音や急激な動きにも過剰に反応せず、落ち着いていることができる。アニマルセラピーの実施に対応できる。